

NPO 法人

北信州体操クラブ



誰もがができるスポーツで 地域に健康と元気を

長野県内最長16年のタンブリングトランポリン、略して「タントラ」。体操に触れるきっかけづくりとして、タントラの体験会やイベントでの体操競技発表会など、市内で積極的に体操を披露するクラブがあります。

今回は、体操競技の普及に努める「北信州体操クラブ」の皆さんにお話を聞きました。

○設立から10年目

2008年に総合型地域スポーツクラブとして設立。最初は、5歳児の会員が一人で、延徳小学校の体育館で活動していました。それから10年がたち、今では幼児から大人まで約60人のクラブ会員がいます。器具を使った体操競技の人口は少ない状況。6種類の競技がある中で、器具がクラブにそろっていないことなどが理由です。私たちのクラブでも昨年、6種目に必要な器具がそろったばかりです。

○タンブリングトランポリン

全国体操小学生大会に4年連続で出場しています。しかし、選手層が薄いのが課題です。クラブ全体のレベルアップを目指して、活動してい

ます。その中で、体操競技「ゆか運動」で連続して跳ねる「タンブリング」をトランポリンで体感できるタントラを導入しました。競技用の床では小学生の軽い体を高く跳ね上げてくれません。連続技を体感してもらうために、長くて、低い位置に置いて安全なトランポリンであるタントラが必要でした。

○誰もが楽しめるスポーツ

3月に行われた「まちゼミ」の講座の一つとしてタントラ体験を主婦層をターゲットに行いました。ジャンプをすることで全身運動になったり、脳に刺激が与えられ脳が活性化したりします。

世代問わずに楽しめ、健康につながる体操。中野市に体操クラブがあり、体操は誰でもできるスポーツであることを知ってもらいたいです。また、SNSなどでイベントなどの情報発信もしています。発表会などの場で、タントラなどの体操競技器具の無料体験も行っていますので、体操に触れてみるのはいかがでしょうか。



▲タントラ体験の様子



◀北信州体操クラブ Facebook ページ

広報クイズ

■今月のプレゼント
「おのこセット」…2人

問題

2018年度予算の歳出総額は？
「●●億●●万円」

クイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、世帯主名を記入の上、今月の広報で参考になった記事、今後知りたい情報などをはがきに書いて、次の宛先までご応募ください。

締め切り 4月27日(金)必着
※当選はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

先月号の答え 高社山から切り出し、新庁舎の天井ルーバーに使用している木の種類は？
答え・・・「カラマツ」

383-8614

(住所記載不要)

中野市庶務課
秘書広報係 行

住所・氏名・年齢・
電話番号・世帯主

※今月の「市民リレー元気の輪」はお休みです。

2018年1月に着任し、だいぶ中野市の生活に慣れてきました。地域おこし協力隊の赤松頼子です。

3月まで、やしょうまづくり、わらうまづくりなど、地域に根ざした文化に触れ合う体験をしました。実際に作ることで、親しみも湧き、今後、市外への情報発信をしていきたいという気持ちも高まりました。これからも、中野市の文化や歴史、そして農産物などの理解を深めていき

ます。

4月からは新しい地域おこし協力隊のメンバーも加わります。活動の内容もそれぞれミッションは違いますが、イベントなどのときはお互いに協力して「信州なかの」のPRに貢献していきたいです。

いろいろなイベントに出発しますので、気軽に声を掛けてください。よろしくお祈りします。



- 1 アイコ美術工芸社での染物体験
- 2 土人形絵付け体験
- 3 佐藤いずみさんに習った新聞紙アート体験
- 4 やしょうまづくり体験。中野市食生活改善推進協議会の原積さんと2ショット



去る2月28日から3月16日まで開催された3月市議会定例会で本年度予算が承認された。2018年度は「第二次中野市総合計画前期基本計画」の3年目であり、また「中野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の4年目の年である。人口減少・少子高齢化が地域社会において大きな課題をもたらす中、地域の活力を維持し、安全で住みやすく豊かな社会を持続させるため、さらに政策推進力を高めていかなければならないと思いを新たにしたい。

私たちは常に将来を見据え、先手先手の取り組みを展開しなければならぬ。無論、今ある課題についても着実に取り組むことが大切だ。そこで、本年度は「ステップアップの年」と位置付けた。人口減少と少子高齢化が進む中で、人手不足に見られるように、人材の確保、維持、育成がこれからの地域づくりの要である。経済活動にあっても、社会的活動にあっても、活動の主体は「人」であり組織である。

ステップアップの年

池田市長の わくわくレポート

vol. 51



本年度予算では、学校統合や保育園整備、道路整備など必要な予算措置はもちろんのこと、人材育成に係る予算として中学生の海外短期留学事業、医師確保のための施策、農業経営者育成のための農業経営塾の継続、新規就農支援、地域おこし協力隊の増員、協働による地域づくりを目指す自主的な活動を行うための「中野のチカラ応援交付金事業」など、人材に係る予算措置を種々継続拡張した。

私は主体的に行動する地域や組織、団体が活力を保持しその行動を継続することが、持続する社会の実現の鍵であると考えている。地域はその地域に住まう人たちが主体的に行動し変化に対応する。そうした、主体的な行動こそが、これからの地域発展にとって必要不可欠からざるものである。加えて地域経営の資源はやはり「ヒト」である。

私たち一人ひとりが課題とともに進むべき方向を共有し、行動するとき、私たちが中野市のポテンシャルが顕在化し、生かされると考える。本年度はこれまでも増して、積極果敢に行動したい。